



ビジターセンターからの おしらせ

第9号 奥多摩ビジターセンター通信

季刊

おくたん



8月に2つのキャンペーンに参加!

マナーアップ強化キャンペーン

8月11日～20日まで、奥多摩町、環境省、観光協会、企業、東京都レンジャー、ビジターセンターなどの地域関係者が集まり、氷川溪谷の河原でBBQをする方たちに直火禁止、ゴミ持ち帰りを呼びかけました。生きもの、景観保護のため今後ご協力をお願いします。



山の日・遭難防止キャンペーン

8月11日の山の日に奥多摩駅前に関係者と共同して登山届提出の呼びかけを行いました。昨年の奥多摩地域の山岳事故は84件。安全に登山するためにぜひ計画を立て、出発前に家族や友人にも行き先を伝える工夫を試してみてください。



登山届記入例



ちちたまかい ニュース

子どもパークレンジャー in 三峰を共同開催しました!

秩父多摩甲斐国立公園をフィールドとして、子どもパークレンジャーを開催しました。この行事は国立公園内において、自然環境学習などを環境省の自然保護官と一緒に体験する小・中学生対象のプログラムです。8月は昨年同様に埼玉県の大宮三峰神社付近で開催。キノコ探しや葉っぱ集め、動物のごはんさがしなどをして盛り上がりました。

「いろんな生きものが見れて楽しかった」

「虫が苦手だったけど、こどもが虫に興味をもつ姿が見られてよかった」

などの感想がありました。

自然とのつきあい方を学ぶきっかけになればうれしいです。



奥多摩で育った魚、食べたことありますか



奥多摩ビジターセンター
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1
TEL: 0428-83-2037
URL: <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>
指定管理者: (株) 自然教育研究センター (略称 CES)

9月25日 発行

Follow me!



X (旧 Twitter)



facebook



youtube

おくたんでは、奥多摩を探求し、奥多摩を堪能していただくための情報をお届けします。

多摩川

多摩川の恵みを
食やレジャーに利用しています

奥多摩の魚産業

<多摩川上流域の魚>

多摩川は山梨県と埼玉県の県境にそびえる笠取山（1953m）の山頂近くの「水干」の一滴より流れとなって、河口は東京湾に注ぐ延長138キロの川です。

奥多摩地域は河口より約80キロの上流域にあたります。清らかで冷たい川には、ニッコウイワナ、ヤマメ、カジカ、ウグイなどの魚が生息します。

写真（奥多摩町氷川）

<養殖して食べる>

川魚養殖は大正11年10月に吉野養魚場（現在の青梅市柚木、昭和30年廃止）、昭和16年には小丹波と海沢に養鱒場が設置されました。平成15年から名称を「奥多摩さかな養殖センター」として河川の魚資源の維持、観光、レクレーションなどのため、ヤマメ、イワナ、ニジマスを生産しています。なかでも注目すべきは「溪流の女王」呼ばれるヤマメを、染色体操作で大きく育てた「奥多摩ヤマメ」。飲食店に卸され、お刺身などで食べることができます。

<さかな養殖センターの方に聞きました>

養殖には濾過した川の水が使われていますので、台風などの荒天時は施設につきっきりで見守りが必要です。さらに、センターの方のお話によると、水温の上昇や水量の増減の変化が、年々、激しくなっている気がするとのこと。

養殖にも気候や自然環境の変化が大きく影響します。

奥多摩ヤマメのお刺身



奥多摩さかな養殖センター

<溪流で釣る>

奥多摩周辺には5箇所の釣場があります。なかでも、一番歴史があるのが大丹波国際虹ます釣り場です。釣り場の方にインタビューしました！

Q：営業開始はいつですか？

>昭和31年です。

Q：なぜ名前に「国際」とついているのですか？

>横田基地が近いこともあり、外国の方が多く訪れていたため「国際」と名前がつけました。

現在も日本人のほかにも中国、韓国、台湾など外国の方も多く訪れます。

Q：奥多摩の釣り場の特徴はどんなところですか？

>自然の川を使って釣り場をしていること。外国の人のなかには、奥多摩の川がとても澄んでいて綺麗なことに驚く方も多いです。

Q：自然の川を釣り場として使う大変さはありますか？

>台風や大雨の際には、増水したり、土砂、流木などの流入で川の形などが代わり、臨時休業になることもあります。山や森の状態、川の水質なども変わってくることもあります。

Q：山や森と川の状態は関係があるんですね

>山が水量を調節している。

山の状態がよいと川の水質も良くなると思います。



白丸湖のニジマス



昭和34年4月5日奥多摩町政時報には大丹波国際釣漁場で外国の方が釣りをしている写真が掲載されていました。

これら奥多摩の2つの産業は多摩川の冷たく綺麗な水環境を生かしています。

自然を活用する大変さがありながらも、試行錯誤を繰り返し適応してきました。



大丹波川国際虹ます釣り場

美味しい溪流魚や人気のレジャーは多摩川の恵みを利用した奥多摩の重要な産業であり多摩川と共にくらす人々の歴史です。体感してみたいかがでしょうか